継続的に自己の生き方を見つめ直す道徳の時間にするために
―道徳ファイルの作成・活用と様々な工夫を通して―

大野沙也加

１．研究の目的

今、教育現場では道徳教育の重要性が再認識されている。今後は道徳を特別の教科として位置付けることになり、今まで以上に道徳教育の充実が求められるであろう。

道徳的実践力を育成するためには、児童が道徳的価値について学んだことをもとに自己の生き方や在り方について考える学習を充実させることが必要である。小学校学習指導要領(平成20年2月)では、道徳の時間の目標に「自己の生き方についての考えを深め」という一文が加えられ、特に小学校学習指導要領解説道徳編(平成20年8月)では、意識して指導を行うことが重要であると示されている。自己の生き方について考えを深めるためには、未来の生き方について考えるだけではなく、過去の生き方・現在の生き方を見つめ直すことも必要である。また、同書では「自らの道徳的な成長を実感できるようにする」ことが具体的事項として挙げられている。これらのことから、道徳教育において自己の生き方について考えを深めるとともに、日々自分自身の道徳的成長を実感することが重要であると考えられる。

しかしながら、筆者自身、小学校時代の道徳において生き方を見つめ直せた、道徳的な成長を実感できたという経験がない。思い起こしてみると、登場人物の気持ちの変化を追っていくばかりで、自分自身の経験と重ね合わせることが難しく、道徳の学びと実生活とをつなげて考えることができなかったように感じる。実際に学校現場では、道徳は単発の授業が多いため、今までの授業とのつながりを実感しづらいという状況があり、自己の道徳的成長を見取ることが難しいと思われる。また、授業で使用したプリントをどうするかは各自に任せられているということがあるため、せっかくその時の自分の気持ちが表れている大切なものでも、どこにいったか分からないというような子どもたちの状況がある。そして、授業内容や自分の考え（ワークシートに書いたこと）等を振り返ることができるような機会が道徳の時間にあまり設けられていないため、道徳の時間において継続的に自己の生き方を見つめ直すことが困難な状況もあると考えられる。

このようなことから、道徳の授業の配布資料をファイルに蓄積していくように指定し、子どもたち一人一人の道徳ファイルを作成するのはどうかと考えた。なお、子どもたち自身が振り返りたくなるようなものとするためにワークシートや授業内容の工夫も並行して行う。このようにして子どもたち一人一人が道徳ファイルを作成し、教師側がワークシート・授業内容を工夫することで、子どもたちがファイルを活用できれば、道徳の時間において振り返るたびに自らの成長を実感し、継続的な自己の生き方の見つめ直しが可能となっていくのではないかと考えた。したがって、本研究は、子どもたちが継続的に自己の生き方を見つめ直すことができるようにするための道徳ファイルの作成等を中心とした方法的な工夫を提案することを目的とする。

なお、本研究は、一定の道徳的価値について学び、理解できていると思われ、自己

の生き方についての考えを深めやすい第6学年の児童を対象とする。

２．研究の方法および経過

本実践研究は、以上のような方法で進めることにした。

(1) 基礎研究

・授業実践（平成 24 年 9 月～平成 25 年 1 月）

5 年生で計 22 回授業をさせていただき、主に道徳の授業構成・発問・ワークシートの在り方について実践・省察をし、考えを深める。

・文献研究、先行研究（平成 24 年 9 月～平成 25 年 8 月）

自己の生き方を見つめ直す道徳の時間にするために有効と思われる資料内容・授業時の工夫・ワークシートの工夫にはどのようなものがあるのかを考える。

・道徳の研究授業の参観・協議会への参加（平成 24 年 1 月～平成 25 年 11 月）

子どもたちの実態（資料の蓄積、発問に対する答え、意見交流による変化など）から、自己の生き方を見つめ直す道徳の時間にするために必要なことを考える。また、子どもたちの実態に合わせた道徳の授業の実際から、様々な工夫点を考える。

(2) 実践研究

・事前アンケートの実施(平成 25 年 4 月)

「道徳の時間にもらった資料とワークシートの蓄積状況」「蓄積したもの（道徳の時間にもらった資料とワークシート）を活かす状況」・「その他」の 3 つで構成したアンケート調査を実施し、子どもたちの状況・気持ちや要望を把握する。

・授業実践（平成 25 年 4 月～12 月）

6 年生 1 クラスで表 1 の価値項目及び資料に基づく授業を計 7 回実施する。資料は、クラスの子どもたちの興味・関心、実態に合わせて選択する。

表1　授業実践取扱い資料

価値項目	資料名
1-(2)努力	プロを夢みた野球少女
2-(2)思いやり	どうやって伝える？
2-(2)思いやり	おばあちゃんの指定席
4-(1)公徳心、規則尊重	シンガポールの思い出
2-(2)思いやり	友だち①
2-(3)友情	友だち②
4-(4)社会奉仕	心をつなぐ写真

・事後アンケートの実施（平成 25 年 12 月）

事前アンケートの「蓄積したもの（道徳の時間にもらった資料とワークシート）を活かす状況」に加えて「友達の意見と板書」についてのアンケートを実施する。

・子どもたちの様子観察（平成 25 年 4 月～12 月）

授業実践をし始めてからから、子どもたちに変化があるかどうかを授業中、授業以外（休み時間など）で観察する。

３．研究の成果

(1) 事前アンケートより

「道徳の時間にもらった資料とワークシートの蓄積状況」「蓄積したもの（道徳の

時間にもらった資料とワークシート）を活かす状況」・「その他」の 3 つで構成したアンケート調査を 6 年生 1 クラス（全 33 名）で実施した。

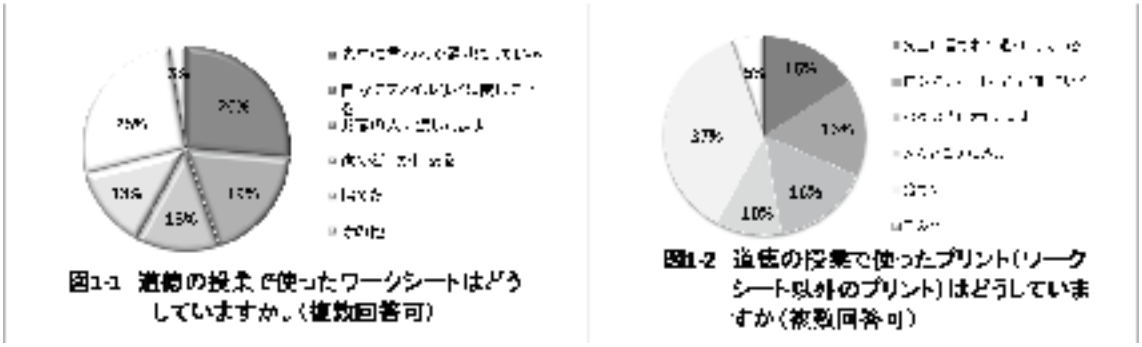


図1-1 道徳の授業で使ったワークシートはどうしていますか。（複数回答可）

図1-2 道徳の授業で使ったプリント（ワークシート以外のプリント）はどうしていますか（複数回答可）

図 1-1 より、ワークシートを自分自身で管理できていない子どもがクラスの約 50%を占めていることが分かる。また、図 1-2 より、ワークシート以外のプリントを自分自身で管理できていない子どもはクラスの約 60%を占めていることが分かる。そのため、道徳ファイルを作成することが自己の生き方を振り返ること、自己の成長を実感することを可能とする道徳の第一歩につながるのではないかと考えた。

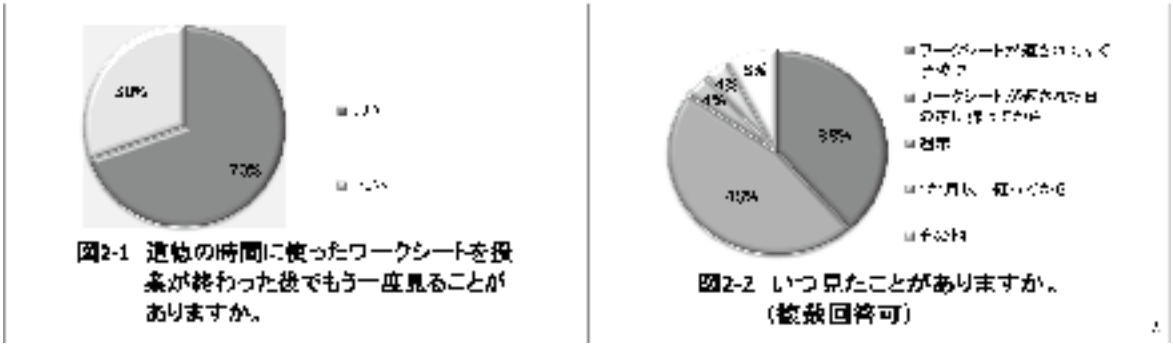


図2-1 道徳の時間に使ったワークシートを授業が終わった後でもう一度見ることがありますか。

図2-2 いつ見たことがありますか。（複数回答可）

図 2-1 より、クラスの 70%の子どもが授業後にワークシートを見返していることが分かる。いつ見返すかについては、図 2-2 を見ると、その日に見返す子どもがほとんどである。その他の意見としては、「偶然家で発見して、何だこれという感じで見ることがある」「整理しているときに見たことがある」という意見が挙げられた。このことから、道徳ファイルがあれば、意識的に見ることができるのではないか、また、見返したくなるように教師側が工夫することで、見る回数が増え、振り返るきっかけ作りにつながるのではないかと考えた。

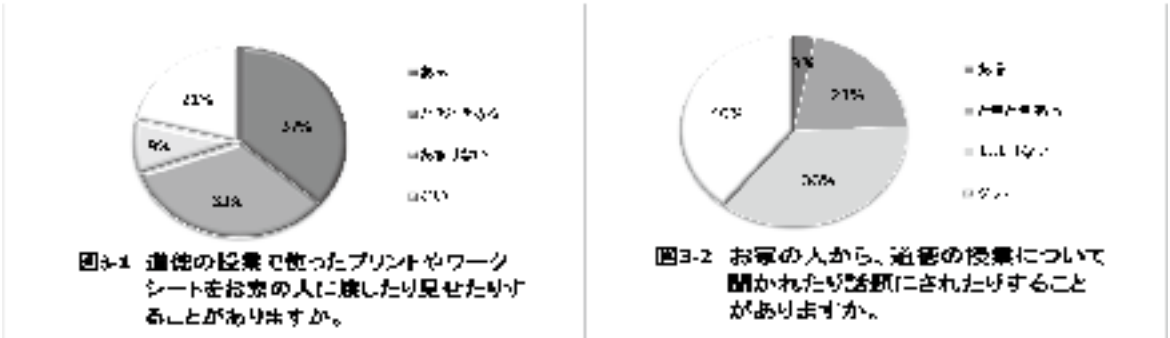


図3-1 道徳の授業で使ったプリントやワークシートをお家の人に渡したり見せたりすることがありますか。

図3-2 お家の人から、道徳の授業について聞かれたり話題にされたりすることがありますか。

図 3-1 を見ると、クラスの 70%の子どもがワークシートをお家の人に見せている

ことが分かる。その一方で、図 3-2 では、お家の人から道徳の授業について話題にされることはないと答える子どもがクラスの約 80%を占めている。自己の生き方の見つめ直しの充実には、家庭で道徳の授業の話題があがることも重要だと考えるため、そのための工夫も必要ではないだろうか。

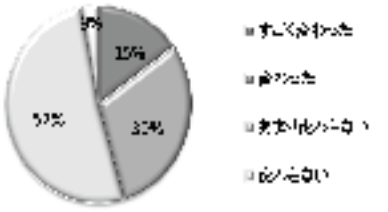


図4 道徳の授業を通して自分の心や行動は変わったと思いますか。

図 4 を見ると、クラスの約 50%の子が道徳的成長を実感できていないようである。とは言え、今までと比べるとどの子も道徳的に成長しているはずである。このことから、自分自身で道徳的に成長できたと実感できるようにするための教師による工夫がやはり必要だと分かった。

（2）授業実践より

事前アンケートをとり、ファイルを渡して以降、授業実践を 7 回させていただいた。実践の中での工夫点（6 つ）と子どもたちの様子は以下の通りである。

①ワークシートの工夫

毎回、ワークシートを作成して授業中に使用した。ワークシートの工夫点と子どもたちの様子は以下の 3 点である。

a メモ欄

工夫点

道徳のワークシートにできるだけメモ欄を設けた。これは、授業実践を始めてから、ワークシートの空いた場所にちょっとしたメモを書く子がいることに気付いたからである。ただし、メモ欄に何かを書くことは強制せず、書く内容も指定しない。

子どもたちの様子

図5 （はいと答えてくれた人）どんなことをメモしましたか。

事後アンケートの結果では、クラスの約 50%の子が道徳の時間に「書いてください」と言われたこと以外でメモをしたことがあるということが分かっている。図 5 はその子たちがどのようなことをメモしているかを示したものである。「先生の板書」と「友だちの意見」が多いようである。その他の意見としては、「感想を書く」「そのとき勉強したことのしくみやまとめを書く」「先生が話したことを絵にする」というものがあげられた。メモを書くことが振り返ることにつながるかどうかは不明ではあるが、自分がメモしておきたいと思ったことを書きとめておくスペースがあることは、自分だけのワークシートを作ることにもつながり、見返そうという気につながっていくのではないかと考える。また、実際に頭が混乱する内容は、絵にしたり、重要なことを書きとることで、理解が深まるといったケースもあるということが分かった。

b アンケート欄

工夫点

毎回のワークシートに図 6 のようなアンケート欄を設けた。

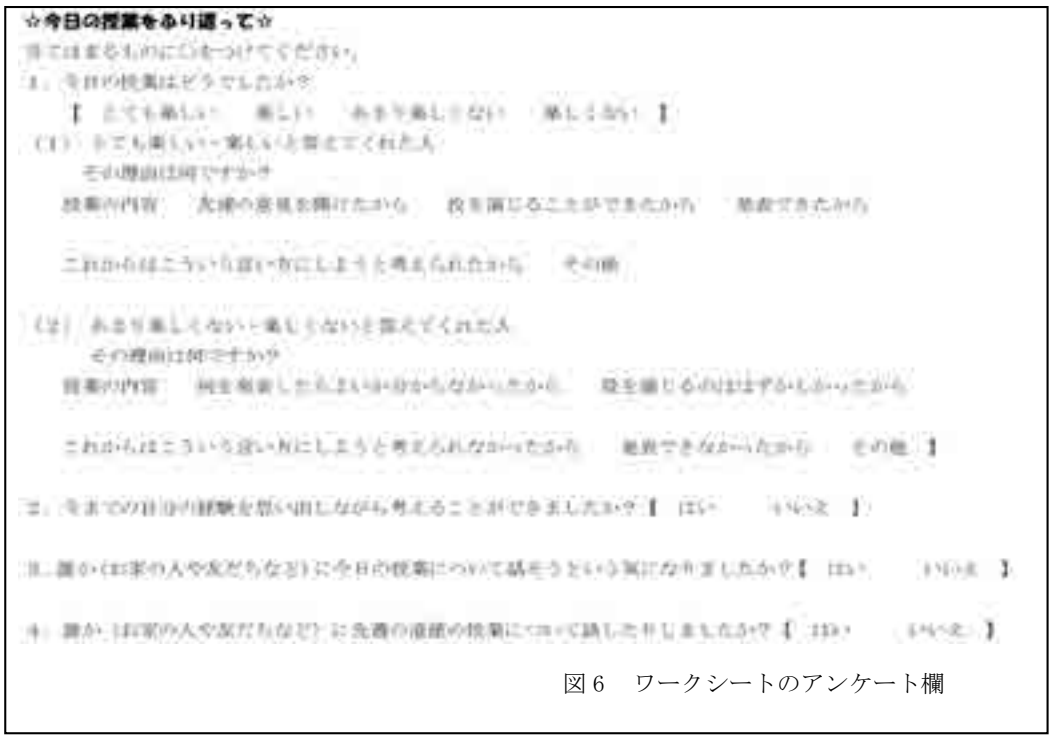


図 6　ワークシートのアンケート欄

特にアンケートで見取りたいと思ったのは、「今までの自分の経験を思い出しながら考えることができたか」「誰か（お家の人や友だちなど）に今日の授業について話そうという気になったか」「誰か（お家の人や友だちなど）に前回の道徳の授業について話したりしたか」の 3 点である。特に、「今までの自分の経験を思い出しながら考えることができたか」においては、自分の経験と照らし合わせて考えることができた子ども、できなかった子どもを知る判断の一つとし、自らの授業改善へとつなげるための方法とした。できなかったと答えた子どもには、「今日の授業どうだった？」と聞き、授業の感想から、なぜ難しかったのかを把握するようにした。また、毎回このアンケート項目を入れることで、自分を振り返りながら考えるという意識をつけさせたいという意図もある。「誰か（お家の人や友だちなど）に今日の授業について話そうという気になったか」「誰か（お家の人や友だちなど）に前回の道徳の授業について話したりしたか」については、授業後にどのような振り返りの時間が設けられたかを知る一つの手段となるのではないかと考えた。

子どもたちの様子

アンケート項目 2、「今までの自分の経験を思い出しながら考えることができましたか」については、資料の内容によるところが大きいということが分かった。やはり、同じような経験をしたことがある子どもは今までの自分を振り返りやすいようである。また、アンケートを入れたことで、子どもたちの方から、「同じような事、

私にもあったよ。」と経験を話してくれるようになったり、「先週、お母さんに道徳でこんなことを発表したよってプリントを渡したら、ほめられたよ。」と報告してくれるようなった。

c 自分自身の経験を思い出しながら考えるよう促す工夫

工夫点

授業中、自分の考えを書いたり発表したりする際は必ず「似たような経験をしたことがある？」「このような場面を見たことがある？」「似たような言葉を言われたことあると思うんだけど、そのときどう思ったかな？」と、資料の世界だけで考えるのではなく、子どもたちの日常生活にも目を向けられるような声かけを行うことを心掛けた。

子どもたちの様子

ワークシートを見ると、今までの自分自身の経験を振り返って書いているということが一目で分かるものがあった。「私にも同じような経験がある」「今まではこうしていた」「境遇が一緒だからよく分かる、けど、最近こういうことに気付いた」「その気持ちよく分かる」などである。しかし、子どもたちの記述を見ていると、ほとんどの子どもが自分自身を振り返りながら記述できており、短い言葉の中にもその子どもなりの経験、学び、純粋な思い、決意が含まれているように感じた。それは、あくまで主観でしかないが、学校での様子と合わせて考えると納得できる子が多くいた。また、子どもたちの中には、「これからはこうしていきたい」とその授業の価値項目に合った記述をしている子どもいる。これもその子どもの心の中の大切な決意である。記述したものはそのときの自分の気持ちの表れの一つである。したがって、振り返るときに自分の経験が思い出せるようなワークシートなら、より振り返ろうという気持ちにつながり、自己の気持ちの変容、道徳的成長を実感することにつながるのではないかと考える。

②授業中の声かけ

工夫点

今回、授業実践としては 7 回で変化を見ているが、授業自体は研究対象の子どもたちが 5 年生の時からさせていただいている。そのため、関連する部分が出てきた時に、「前に○○についてお勉強したの、覚えてる？」というように、授業中、以前学習したこと（同じ価値項目の学習）を思い出させる時間を入れた。

子どもたちの様子

「あ～やったなあ。」「○○をした話？」と以前の学習内容を想起する子がいた。また、道徳ファイルを開いてプリントを見返そうとする子もいた。

③友だちの意見を載せたプリントを配布

工夫点

授業中の主発問に対する子どもたち全員の意見をまとめたものを次の道徳の授業の始めに前回の授業内容として全員に配布する。

このプリントも道徳ファイルにはさむよう指定する。

子どもたちの様子

時間のある時に見るように伝えようと思っていたが、配られると友だちの意見を熟読する子どもが多かったため、始めにそのプリントを見る時間を取るようにした。子どもたちの様子を見ていると、まずは自分の意見が載っているかどうかを確認しているようだ。

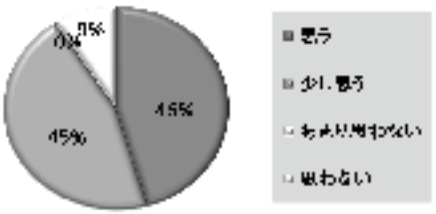


図7 友だちの意見をまとめたプリントが配られた方がいいと思いますか。

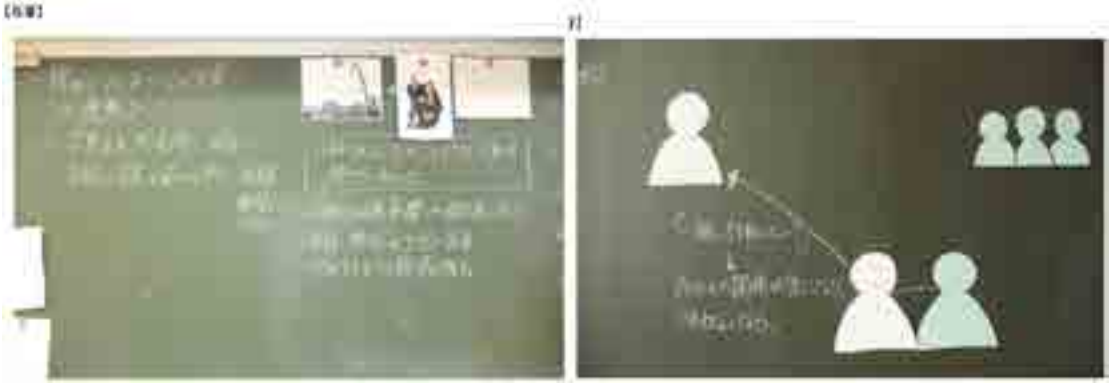
また、事後アンケート結果として、図7を見ると、このプリントがあった方がいいと答えている子どもがクラスの約91%となっている。あった方がいいと思う理由としては、「友だちの意見を知りたいから」「自分とは違う意見を知りたいから」「自分とは違う意見を見ると、こんな考え方もあるんだと分かるから」といった意見が大半であった。他にも「発言していない人の意見が知りたいから」「道徳ではノートを取らないから」という意見もあった。以上のことから、友だちの意見をまとめたプリントは、子どもたちにとってプラスの影響があり、見ようという気につながっていることが分かる。

④板書を写真に撮って配布

工夫点

1時間の道徳の授業の板書を写真に撮り、次の道徳の授業の始めに前回の授業内容として全員に配布する。このプリントも道徳ファイルにはさむよう指定する。

〈次の時間の始めに配布した板書の写真〉



子どもたちの様子

子どもたちは配られるとすぐにプリントを見始めた。また、このプリントを家の人に見せているという声があった。また、事後アンケート結果として、図8を見ると、このプリントがあった方がいいと答えている子はクラスの約67%となっている。あった方がいいと思う理由としては、「前の授業内容を思い出せるから」「見返したときにその内容が分かるから」「次につなげられるか

ら」「家の人にこんな授業をしたんだと見せて一緒に考えられるから」といった意見が大半であった。他にも「道徳ではノートを取らないから」「写真だとより頭に残るから」という意見があった。以上のことから、板書の写真は振り返りの際には有効で、このプリントが家の人との道徳の授業についての話につながる場合もあるということが分かる。

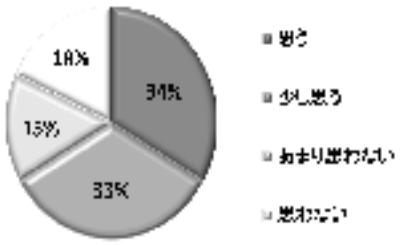


図8 道徳の板書の写真が配られた方がいいと思いますか。

⑤道徳ファイルの作成

工夫点

全員にファイルを配布し、道徳の授業で配られたものは全てはさむように指定した。

子どもたちの様子

授業が終わった後、ファイルにはさむ姿が見受けられた。また、以前の道徳のワークシートを返却した際にも、すぐにファイルにはさむ姿が見受けられた。そして「先生、見て。ちゃんとファイルにはさんでいるよ。」と報告する子どももいた。また、そこから、「あっ！『おばあちゃんの指定席！』これはいい話だったよね。あれから席を譲ろうと思うようになって。そういえば、この前席を譲ったよ。」と以前の資料をパラパラとめくりながら、その価値項目に関することについての実生活における変化を話す子がいた。

⑥学級通信で道徳の授業内容を紹介する

工夫点

道徳の授業内容と主発問に対する子どもたちの意見を学級通信に載せる。

子どもたちの様子

学級通信はクラスのほとんどの子どもが日頃から保護者に見せており、そこから会話が生まれているようである。そのため、学級通信に道徳の授業内容を載せると、子どもたちの方から、「お母さんに道徳の話をしたよ。」「○○は何て発表したのって聞かれたからプリントを見せたよ。」といった声が聞こえてきた。このことから、保護者がよく目にする学級通信や学年通信等で道徳の授業内容と意見を知らせることは、家で道徳の話をするきっかけとなり得るということが分かる。

(3) 事後アンケートより

図 9-1 と図 2-1 を見て分かるように、授業後にワークシートを見る子どもは 9%増えた。また、図 9-2 と図 2-2 を比べると、いつ見るかについては実践後に「その他」が増えている。「授業の日ではなくても家に帰ってから」「お家の人に見せた後ファイルに綴じるとき」「家族で道徳の話になるとき」等といった比較的好ましい傾向が見られる。図 10-1 を見ると、板書や友だちの意見がのったプリントを見返す子ども

はクラスの約 70%であることが分かる。

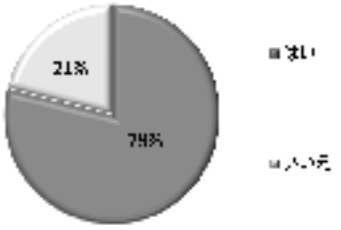


図9-1 道徳の時間に使ったワークシートを授業が終わった後でもう一度見ることがありますか。

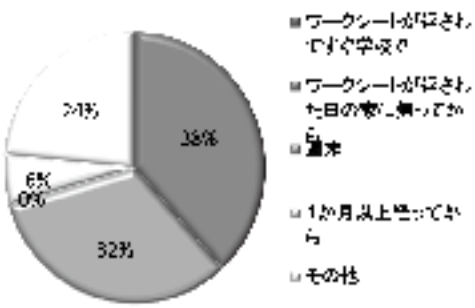


図9-2 いつ見たことがありますか。（複数回答可）

図 10-2 のその他としては、ワークシートと同様、「授業の日ではなくても家に帰ってから」「お家の人に見せた後ファイルに綴じるとき」「家族で道徳の話になったとき」等があげられた。

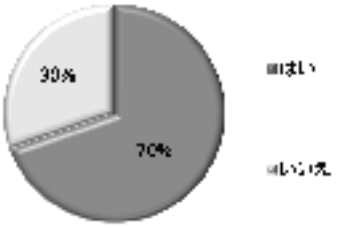


図10-1 道徳の時間の板書や友だちの意見ののったプリントを授業が終わった後でもう一度見ることがありますか。

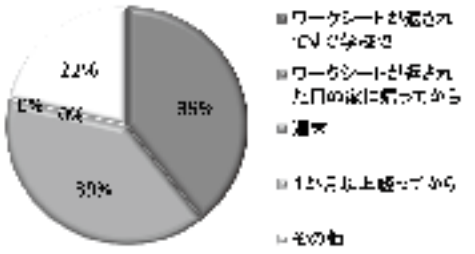


図10-2 いつ見たことがありますか（複数回答可）

以上のことから、少しではあるが、授業実践後に、ワークシートを見返す子が増えたと言える。また、いつ見返すかの「その他」の理由として好ましいものがあがっていた。また、板書や友達の意見がのったプリントも見返す子が多いということが分かり、振り返りには有効な方法の一つではないかと考えられる。

４．まとめと課題（総合考察）

本研究では、継続的に自己の生き方を見つめ直すことができる道徳の授業にするための方法として、主に６つの方法を考え、実践することができた。その中でも基本となるのがワークシートを中心としたプリント類の蓄積である。今回考えた６つの方法の実践の結果、どの方法も今までとは違うよい変化を子どもたちに起こすことが確認できた。したがって、継続的に自己の生き方を見つめ直すことができる道徳の授業にするための方法としてあげた６つの工夫は有効だと考える。とは言え、課題も見えてきた。まず、ファイルを作り、いつでも見ることができるようにする方法をより吟味しなければならないということである。今回の実践では、ファイル

にはさんでいない子どもがいたり、ファイルは家に置いているという子がいた。そのため、まずはファイリングが徹底できるような方法を考えていく必要がある。また、ファイルを置く場所を指定したり、持って帰って保護者に見せる機会を作るなどの工夫をこれからしていく必要があるということが分かった。そして、今回最も私が課題に感じたことは、経験の違う子どもたちに、如何に自分の経験とすりあわせながら考えさせられるかということである。今回は経験とのすり合わせがしやすいように資料を選択したが、いかなる資料であってもそれができるようにするための方法をこれから考えて実践していきたいと思う。

５．主要参考文献

・東洋館出版社　『教職資料　新しい道徳教育＜活用試行版＞』　国立大学法人東京学芸大学学務部学務課　2011
・教育出版　『各教科・領域等における道徳教育の進め方の実際』　小島宏　2010
・東京都教職員研修センター「道徳の時間における自己の生き方についての考えを深める指導の工夫－自己の生き方を見つめる学習活動を通して－」　吉本一也　2011
http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/09seika/reports/kenkyusei/h23.html#dou